



副園長 奥村 綾

～わくわくデー～

先日のわくわくデーはいかがだったでしょうか。今年度もコロナ禍での開催でしたが、多くのご家族の方に、生でご覧いただきたく、観覧者の人数制限はせず、学年ごとに取り組む形で行いました。初めての試みで、時間配分や観覧者席の配置等苦慮し、当日スムーズに行うことができるか、私たち職員にも緊張感が漂っていました。

当日保護者の皆様は、園からの手紙や配信を良くご理解いただき、入場時間や駐輪・観覧のマナー等、厳守いただいたおかげで、大変スムーズに進行することができました。ご理解、ご協力本当にありがとうございました。

内容やプログラム等『子ども主体』で進め、『保護者と同じ時間を共有し、共に楽しめる日』と捉え、結果よりも過程を大切に進めてきました。

当日、子ども達は、小学校の広い校庭で、生き生きとした表情で思う存分自己表現でき、その子ども達の笑顔いっぱいの表情から、保護者の皆様にも楽しんで取り組んできた過程が伝わったのではないかと思います。

年少組は、例年朝の集合時、いつもと違う雰囲気の中、おうちの方と離れることが不安になり、泣いておうちの方から離れられない子が多かったため、今年度は、すべてのプログラムにおいて保護者の皆さんと共に楽しめるよう工夫しました。集合時は少し泣いている子もいましたが、音楽がかかると自然と体も動き出し、幼稚園の保育室や園庭での姿を、そのまま小学校の校庭に持っていくことができたと感じました。

年中組は、各クラスパラバルーンの捉え方や表現方法が違い、クラスの個性が表れた演技でした。また、競技に関して、普段遊んでいる自転車を使って競争したいという発想は、子どもならではのアイデアだと先生達も驚かされました。

年長組は、「行進は保護者の前まで歩いてポーズをする。」「クラスの旗を作って持って入場したい。」「司会自分達でセリフを考えて言いたい。」「メダルはおうちの人にかけて欲しい。」「最後はおうちの人と写真を撮りたい。」「最後は花火をあげたい。」等、昨年度までの経験から、プログラム順や開会・閉会式の方法、司会の言葉まで、自分達で考ようという意識が高く、様々な意見が出ました。

今回の『わくわくデー』は、子ども達のアイデアがいっぱい詰まったタイトル通りの、おもしろい、めちゃくちゃたのしい、どきどき、わらう、1日となりました。

わくわくデーを通して、共通の目的に向かって協力し、互いに認め合い、やり遂げた喜びや充実感・達成感・満足感を味わうことができました。

今回保護者の皆さんには、全学年をご覧いただけませんでしたが、子ども達は、毎日園庭やホールで他の

学年の様子を観ていました。ホールで年長組が太鼓をしていると、廊下で観ていた年中児が太鼓のリズム打ちを真似てみたり、ポンポンで踊っている所を覗きに行ったり、園庭でパラバルーンをしている年中組を観ていた年少児が、廊下で音楽に合わせて体を動かしたり、キラキラの玉が高く飛んだ時には歓声をあげたり、憧れや挑戦してみたい気持ちを抱きながら、全学年で一つの事に向かって取り組むことができました。

後日、わくわくデーごっこでは、パラバルーンやポンポン、玉入れ等、みんなで遊んで楽しんだり、太鼓に挑戦する子もいました。また、現在も『ラララ体操』や『ポポポポポーズ』を完璧に覚え、自信を持ってノリノリで体操する姿が見られます。今後も、集団の中で個々の力を発揮できる場面や、その中で自信を持つ事ができる経験作りに取り組んでいこうと思います。

～一輪車～

幼稚園には、8台の一輪車があります。興味を持った子ども達は、鉄棒につかまったり、先生に手を引いてもらったりして一生懸命練習する姿が見られます。

例年挑戦する子は女兒が多く、男児は1～2回は乗ってみるけれど、継続して挑戦する姿はあまり見られませんでした。私も永くこの幼稚園に勤めていますが、今までで乗れるようになった男児は10数年前に1人だけでした。

今年度、年長の男児数名が、取り組む姿が見られました。何回か挑戦したものの、すぐには成果が出ないので、別の遊びをする子もいましたが、3人の男児が、転んでも転んでもすぐに体勢を立て直し、何度も何度も挑戦していました。ある日、1人の子が1日欠席した時に、2人の子が少し上達し、1メートルぐらい乗れるようになっていました。その姿を見た男児は大変悔しがり「特訓したい！」と、ホームの先生に懇願したそうです。ホームのおやつ時間を惜しんでまで、必死に練習する姿がありました。見ている先生が、「大丈夫？」「痛くない？」という転び方をして、何度も何度も挑戦しました。特訓の成果が出て、長い距離を乗れるようになりました。

今では、3人ともスイスイ乗れるようになり、ジグザグに進んだり、バックに挑戦したりしています。その姿に刺激され、再挑戦する子もいます。一輪車はバランス感覚や体幹が必要で、足腰が鍛えられ、粘り強さや忍耐強さが身につきます。また、長期的な目標に向かって意欲的に取り組むことで、やり遂げる達成感を味わうことができます。

一輪車に限らず、一人ひとりが成長することで周りの様子、姿が変わってくることを実感しています。その中で一人ひとりが自分にできることが探せるように、また、目標を持って取り組める経験ができるように関わっていきたいと思います。

